

2004/6/4 伊藤忠テクノサイエンス・ユーザー会様

産学連携の現場から - 慶應SFCの取り組み -

SFCインキュベーションビレッジ(SIV)
研究コンソーシアム代表
國領二郎

本資料はSIVにおける検討資料であって、慶應義塾の方針を表すものではありません

インキュベーション施設の建設

慶應義塾大学は、地域振興整備公団が、SFC地域において大学連携型起業家育成施設整備事業の平成16年度予算内示を受けたことに伴い、公団及び地元自治体の共同で、同地域における新規事業創出を支援する活動を行うべく、体制整備を開始。

(中略)

本事業遂行のためには、産官学連携によるインキュベーションシステムの創成が重要となります。SFCにおいて、本課題に関する調査研究を多くの民間企業と共同で実施した実績のあるSFC Incubation Village研究コンソーシアム(代表: 國領二郎環境情報学部教授)の研究成果を活用して、広く産、官、学と協力関係を構築し、インキュベーション事業を推進していく所存です。

慶應義塾大学2003年12月22日プレスリリースより



クリエイション・コア かずさ (地域振興整備公団Webページより)

慶應義塾大学は二十二日、地域振興整備公団などと共同で二〇〇五年四月に神奈川県藤沢市の湘南藤沢キャンパス(SFC)にベンチャー育成施設を開設すると発表した。SFCの研究成果を生かし、情報技術(IT)、介護など地域密着型の企業や社会貢献(NPO)を育成する。計画は主に慶大発十ベンチャーの育成を想定して

神奈川・藤沢にVB施設
地域密着の事業育成

いた。しかし、SFC開設の準備がまだ進められなかった。これに比べ地域との交流が少なく、一部の「総合研究推進機構」をIに活用した介護、農業などの育成で、地域貢献の色合いが強い。ベンチャー育成に携わる動きが活発な今年、大学二層の事業支援の取組を検討する。

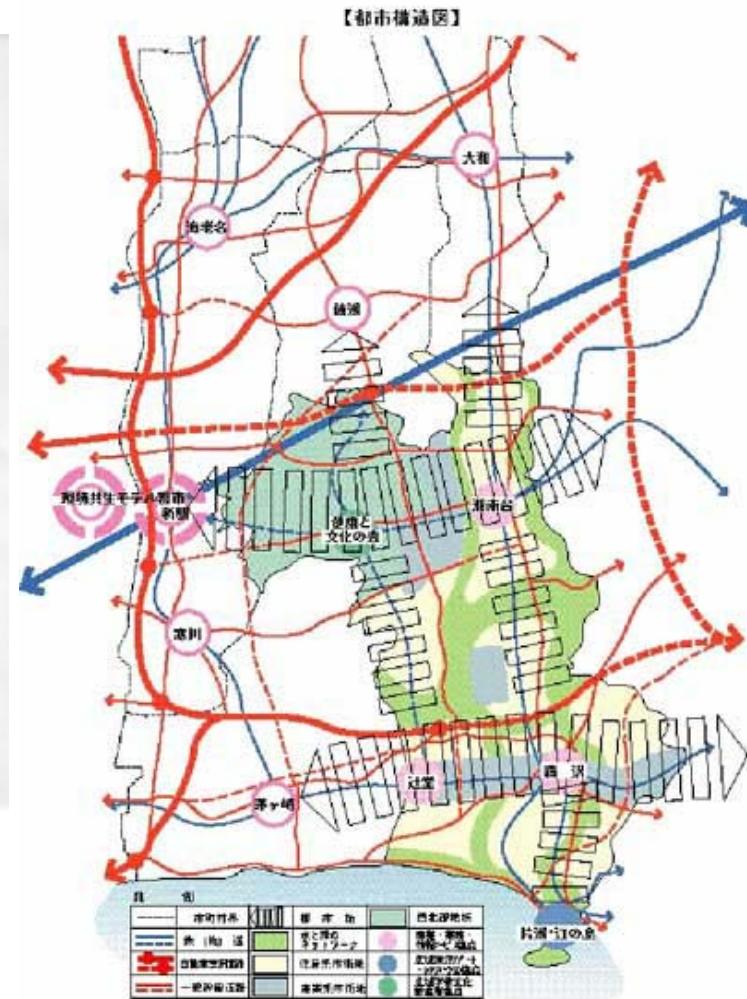
慶大・地域公団など
打ち出すこととした。慶大はSFCを中心に就職先は日吉キャンパス(横浜)でもベンチャー育成施設の建設を検討する。

今回の施設計画もこうした事業支援体制整備の一環。今年十月、知的財産本部の「総合研究推進機構」をIに活用した介護、農業などの育成で、地域貢献の色合いが強い。ベンチャー育成に携わる動きが活発な今年、大学二層の事業支援の取組を検討する。

現状

- インキュベーション施設の建設を契機として、キャンパスとしての産学連携体制整備の動きが具体化しつつある。
- インキュベーション単独で考えるのではなく、大きな視点で考えている。
 1. SFCキャンパス政策(地域全体の発展の中で考える)
 2. 産学連携スキーム(研究・教育も含めた)

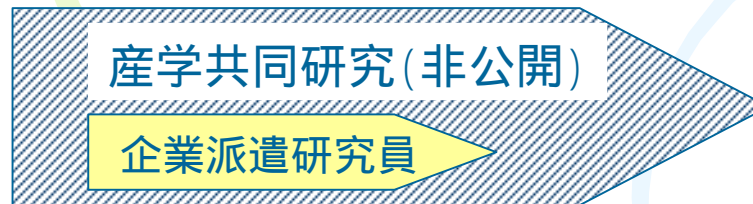
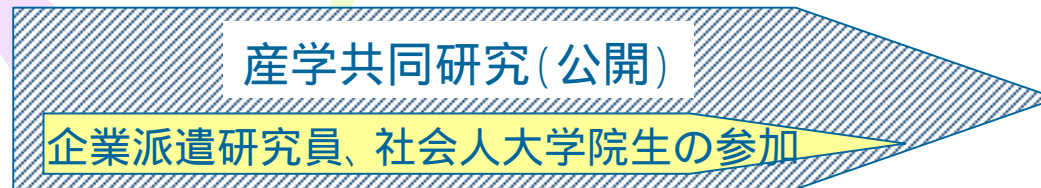
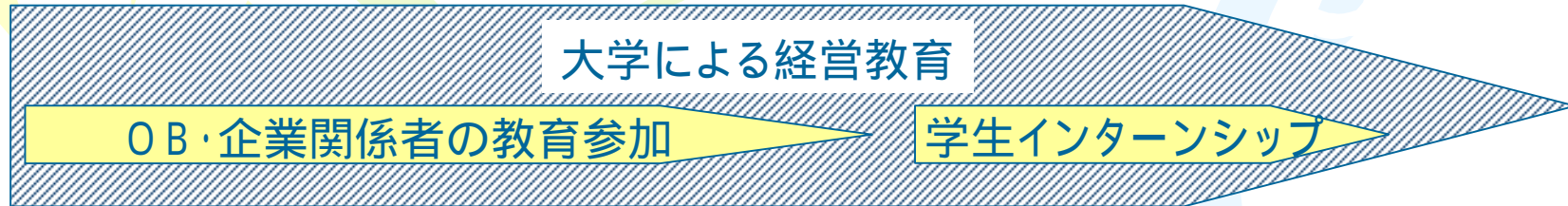
SFC地域における産業クラスターの形成



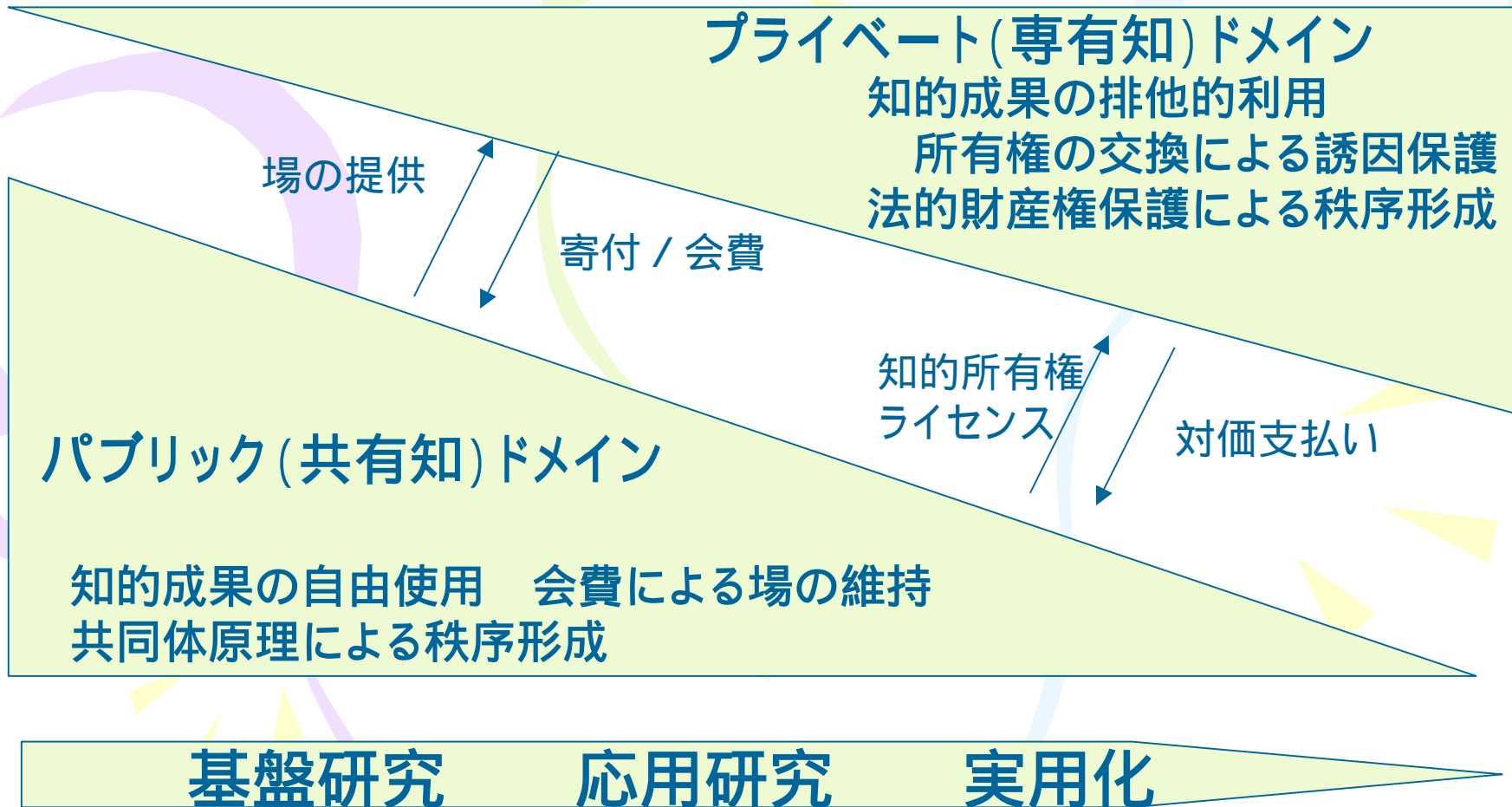
- 企業研究所の立地
- 産学共同研究の活性化
- 研究成果の事業化促進

藤沢市ホームページより

産学連携スキーム



産・学双方の強みの橋渡し




SFC地域で想定する「創業」パターンと産学連携

- **教育に刺激を受けた学生による起業**
 - 既にネットワークコンテンツ系のものが多くある。学生に関心を持つ人間が多くいる。インターネットコンテンツ発信インフラを整備することによって、ベンチャーの集積をつくる
 - 資金や提携先とのマッチング
- **産業界による研究開発型ベンチャーの進出**
 - インキュベーション施設においては子会社型を想定
 - 研究室との共同研究を核に。会社で権利関係明確化
- **教員による起業**
 - 自主的な研究取り組みを実用化
 - 資金や提携先とのマッチング



整備をしたい体制

- 起業の前段となる、産学共同研究プロジェクトの促進
 - 起業に向けた教育の充実
 - 「SFC発ベンチャー」の定義の明確化と支援体制(共同マーケティングなど)の整備
 - 提携VC、エンジェル組織などとの関係強化
 - 周辺まで含めた産業クラスターのイメージづくり
 - ITベンチャー集積地にふさわしいネット環境の整備
- 

The background features several large, stylized, overlapping swirls in shades of light green, light blue, and light purple. Interspersed among these swirls are numerous small, yellow, starburst-like shapes, some pointing towards the center and others pointing outwards, creating a dynamic and celebratory feel.

SIVによる中身づくりの取り組み

<http://www.siv.ne.jp/>

沿革



2000年

4月

松本孝利氏が政策・メディア研究科
特別研究教授としてSFCに赴任
松本孝利氏を中心にSFC
Incubation Villageの構想スタート

12月

2001年

7月

ケイアイブイエス株式会社(現SIV
リサーチ株式会社)設立
SFC研究所内にSFC Incubation
Village研究コンソーシアムが発足

11月



2002年

2月

準備委員会を開催
代表: 村井純、副代表: 松本孝利と
してフェーズ 開始
刈込オフィス運用開始
事務局開設

4月



5月

9月

11月

シリコンバレー視察
Open Research Forum 2002にて
SIVベンチャーフォーラム2002開催

2003年

1月

第6回ベンチャー・プライベート・カン
ファレンスをNTVPと共催
SFC研究所より業務委託を受け、
SFC内シーズ調査を実施
UC San Diego等視察
フェーズ 最終報告会開催

2月

3月



4月

代表: 村井純、副代表: 國領二郎と
してフェーズ 開始

6月

SIV Networking Seminar開始

9月

第7回ベンチャー・プライベート・カン
ファレンスをNTVPと共催

MIT等視察

SIV Tutorial開始

SIV Executive Seminar開始

10月

Open Research Forum 2003に出展

11月

SFC Entrepreneur Award 2003開催

SIV Executive Summary Contest

2003開催

SIV Connect実験運用開始

プレスリリース「SFCにおけるベン
チャーインキュベーション事業に
ついて」

12月



2004年

1月

SIV Business Plan Contest 2003開催

2月

SIVフェーズ 最終報告会(予定)

3月

シリコンバレー視察

MIT 50k Global Workshop参加

4月

代表: 國領二郎、副代表: 村井純と
してフェーズ 開始



フェーズ

目的: SFCインキュベーションセンター設立へ向けた
インキュベーションシステムの創成

期間: 2004年4月～2005年3月
(研究コンソーシアム全体: 2002年4月～2005年3月)

活動の3本柱

教育

+

Incubation

ネットワーキング
プロジェクト

+

研究

フェーズ 背景

SFC Incubation Village研究コンソーシアムは、「SFCをベースにした大学発ベンチャーインキュベーションの成功モデルを作る」ことを目的に掲げ、2002年4月SFC研究所内に発足。フェーズを経て、数多くの知見を蓄積。



SIV Networking Seminar



SIV Office Service



SIV Tutorial



SIV Executive Seminar



SIV Executive Summary Contest 2003



SFC Entrepreneur Award 2003



SIV Spring Board



Project

2004/6/4 伊藤忠テクノサイエンス・ユーザー会様

SIVメンバー企業(敬称略)

伊藤忠テクノサイエンス株式会社

三井物産株式会社
日本ユニシス株式会社
マイクロソフト株式会社
スルガ銀行
株式会社ジャストシステム
財団法人台日経済貿易発展基金会
エヌ・アイ・エフベンチャーズ株式会社
あずさ監査法人
トラボックス株式会社
トーマツベンチャーサポート株式会社
デジタル・ネットワーク・アライアンス株式会社
三菱商事株式会社
松下電器産業株式会社
株式会社パスコ
株式会社ケイ・ラボラトリー
株式会社フラクタリスト
株式会社クレデンシャル総合研究所
株式会社eco-s corporation
ハルデザインコンサルティング株式会社
株式会社ケイビーエムジェイ
有限会社 綴
株式会社アトムシステム
地域振興整備公団
神奈川県
藤沢市
財団法人神奈川中小企業センター
財団法人藤沢市産業振興財団
SFC三田会
NPO法人ベンチャーサポート研究会
SIVリサーチ株式会社